『東京大学言語学論集』**43** (2021.10) e76-e105

『赤毛のアン』の NP's N

―参照点構造からの分析―

湯本　久美子
yumoto@ccs.aoyama.ac.jp

キーワード：NP's N　参照点構造　焦点推移　先行談話　N 指示物の情報構造

要旨

本論の目的は、NP's N (prenominal possessives / s-genitive)における 3 点――不定 NP's N("a minister's wife"; "one's mind")、独立所有格("Mrs. Lynde's"; "the doctor's") そして N の指示物の情報構造――を Langacker (1991/1993/1995)の提唱する参照点構造から考察することである。データとして小説 *Anne of Green Gables* に使われている総数 516 の NP's N を用いる。分析の結果は次のとおりである。1)不定 NP's N：２種の説明を示す。一つは先行談話によるドメインの活性化により、際立ちの低い不定 NP も十分なトピック性を得て参照点として機能する。他方は、不定 NP's N のイディオム化である。2)独立所有格：2 種の現象を示す。一つは参照点構造の焦点推移による - 省略されている N は先行談話で既に述べられている事柄であり、それが参照点となり、ターゲットとなる NP のみが言語化されている。他方は慣習化の結果のメトニミーである。3) N 指示物の情報構造：N の指示物は必ずしも新情報とは限らず、新旧情報の連続体が見られ、弾力のある参照点構造がそれを可能にしている。本論の分析結果は NP's N における参照点構造の動的性質を示していると考える。

1. はじめに

本論の目的は、下記(1-2)の NP's N (prenominal possessives / s-genitive)を取り上げ、参照点構造の動的性質から①不定 NP's N (indefinite NP - "a minister's wife"; "one's mind")、②独立所有格 (absolute possessives - "Mrs. Lynde's"; "the doctor's")、そして③N の指示物の情報構造の 3 点を考察することである。分析用データとして、小説『赤毛のアン』*Anne of Green Gables* の総数 516 の NP's N を用いる。

尚、本論では(1)"Anne's clothes" / (2)"Anne's usual morning greeting"の用語として、説明の便宜上 "Anne" (possessor / possessive)を NP、 "clothes"/ "usual morning greeting" (possessed / possessee / possessum)の部分を N、そして全体を NP's N と標記し、例文中では□でマークする。

(1) She deliberately picked up Anne's clothes, placed them neatly on a prim yellow chair, and then, taking up the candle, went over to the bed.

- 3 章：彼女(=マリラ)はゆっくりとアンの衣服を拾い集め、こぎれいな黄色い椅子にきちんと置いてから、ろうそくを手に取りながらベッドのところに行った。

(2) The birches in the hollow waved joyful hands as if watching for Anne's usual morning greeting from the east gable. But Anne was not at her window.

- 14 章：窪地の樺の木々はあたかも東切妻の部屋からのアンのいつもの朝の挨拶を待ち受けるかのように喜びに溢れた手を振っていた。しかしアンは窓辺にいなかった。

NP's N が多様な意味を表すことは良く知られている。例えば、(1)の場合、NP のアンが N の指示物「衣服」を所有している意味となるが、(2)の N「朝のいつもの挨拶」を所有しているとは言い難い。従って、(1)と(2)の用法をどのように整理するかという大きな問題[1]がある。この問題の解決策として、Langacker (1991:171)は "With respect to this model (the referent-point model を指す), we can define a notion of **abstract possession** that represents what all possessive expressions supposedly share."と述べている。「参照点構造」という認知メカニズムからの「抽象的な所有」という主張に筆者も賛同している。

しかし、参照点構造という観点からの適切な説明が求められている事象が少なくとも 3 点あり、それらが本論の考察対象である。①参照点となり難く見える不定名詞句を持つ NP's N ("a mother's worries"- Radden and Dirven 2007:158)、②ターゲットとなる N が省略されている独立所有格、③N の指示物の情報構造についての議論 - Taylor (1996)は「談話における新情報」、一方、Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009)は「新から旧情報までの連続体」と異なった見解を示している。

分析の結果、以下を提案し、参照点構造の動的性質が大きな働きをしていることを述べる。

① 不定 NP's N

1) "a minister's wife"：先行談話により参照点構造のドメインが豊かに活性化され、その変化により際立ちの低い不定 NP もトピック性を得て参照点として機能している。

2) "(on) one's mind"：イディオム化している事例がある。

② 独立所有格 NP's

1) "Mrs. Lynde's (drink)"： 典型的には情報量の多い固有名詞が NP として用いられており、参照点構造における焦点推移現象である。先行談話ですでに述べられている事柄 N(drink)が参照点となりターゲットとなる NP'のみ(Mrs. Lynde's)が言語化されている。

2) "the doctor's (office)"：慣習化の結果、メトニミーとして使われている事例がある。

---

[1] NP's N に関する他の主な議論点は次の通り：

- "postnominal"/"of-genitive" (Anne of Green Gables)との比較
- 動詞派生名詞 ①どのような動詞派生名詞が所有格となるか、②「主語読み・目的語読み」 "Hitler's invasion/ Poland's invasion)等が研究されている。ref. Taylor (1989 /1994/1996:151-157)

①についての主要な仮説は以下の通り：

- Anderson (1978)/Fiengo (1980) - Affectedness Constraints 所有格になれるのは事態によって影響を被る目的語のみ (*great relief's expression by John / the prisoner's execution by the authorities)
- Fellbaum (1987) - Aspect Constrains 達成タイプの事態を表す場合に限り目的語が所有格として可能・影響性制約の一部 - 達成タイプの事態に生起する目的語はその事態において十分影響を被っている (The city's destruction occurred (*for/in) three days. / *Great relief' expression took place (for/in) the entire evening)
- Rappaport (1983) - Experiencer Constraints 所有格になれるのは経験者に相当するもの (*the scarecrow's fright (of Amy) / Amy's fright)

③　N 指示物の情報構造 :「新から旧情報までの連続体」である。動的な参照点構造における参照点とターゲットの関係は際立ちの程度の違いによるものであり、既知情報と新情報の対立を必ずしも必要とするものではない。

本論の構成は次の通りである。2 節「NP's N : データと先行研究」では本論のデータ分析結果とそれに関する先行研究を示し、次節からの分析の準備とする。3 節「動的な参照点構造」においては、3.1 で不定 NP's N を、3.2 で独立所有格を取り上げ、時間の推移とともに変化していく参照点構造からの説明を行う。3.3 では N の指示物の情報構造を検討する。4 節は結論を述べる。文末 Appendix (A～J)には詳細データを記載する。

2. NP's N : データと先行研究

本節では、本論のデータ分析結果とそれに関する先行研究を示すことにより、NP's N の特徴を説明する。1)NP 指示物の定性と有生性・N 指示物の無生性、2) NP として多用されている固有名詞の情報量の多さ、3)NP のトピック性 、そして 4)NP's N の用法の 4 点である。

分析データとして、本論では小説『赤毛のアン』*Anne of Green Gables*[2]の総数 516 の NP's N を用いた。データとして小説には不適切な点もあるが、本論で注目したい先行談話を追いやすいという利点がある。*Anne of Green Gables* は筆者の長年の愛読書という理由で選んだ。本節ではそのデータ分析結果の報告とともに先行研究の概観によって NP's N の特徴を示し、次節からの考察の準備とする。尚、データ詳細は文末 Appendix (A～J)に記載している。

NP と N 指示物を定性・有生の有無、及び NP の名詞分類から整理したのが表 1 である。

表 1. データ分析（定性/有生の有無・名詞分類）516 used in *Anne of Green Gables*

<table>
<tr><td rowspan="4">NP</td><td rowspan="3">定
NP</td><td rowspan="3">459
89%</td><td>定有生 NP</td><td>453</td><td>固有名詞</td><td>377</td><td rowspan="4">N</td><td rowspan="3">有生 N
C 人物 ＝39
H 人物 ＝12</td><td rowspan="3">51</td></tr>
<tr><td colspan="3">定冠詞/指示詞/代名詞+名詞</td><td>76</td></tr>
<tr><td>定無生 NP</td><td>6</td><td colspan="2" rowspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">不定
NP</td><td rowspan="2">44</td><td>不定有性 NP</td><td>39</td><td rowspan="2">無生 N</td><td rowspan="2">452
88%</td></tr>
<tr><td>不定無生 NP</td><td>5</td></tr>
<tr><td colspan="2">成句</td><td>13</td><td colspan="6"></td></tr>
</table>

このデータは 4 つの特徴を示している。第 1 は定 NP が圧倒的に多いことである。516 の内、459 (約 89%)である。第 2 に、その 459 定 NP の内、有生名詞が 453 (約 99%)とほとんどを占めている。対照的に、第 3 として、N は無生名詞が 452（約 88%）と多数であり有生名詞は 51 と

[2] 『赤毛のアン』*Anne of Green Gables* はカナダの作家 L・M・モンゴメリが 1908 年に発表した長編小説。プリンスエドワード島アヴォンリー村に住む独身の兄妹マシューとマリラ・カスバートは畑作業の手伝いのためにと孤児院から男の子を養子に迎えるように手配した。しかし、手違いで 11 歳の空想好きで癇癪持ち、おしゃべりなやせっぽちの赤毛の女の子アン・シャーリーが来てしまった。次第にマシュー、マリラ、そして村の人々に愛されるようになったアンが小学校そしてクイーン学院を卒業するまでの 5 年間が描かれている。(アンが 50 代を迎えるまでの続編もある。)　本論例文に登場する他の主要人物は、ダイアナ・バリー＝アンの腹心の友、レイチェル・リンド夫人＝隣人、ギルバート・ブライス＝3 才年上の同級生（後のアンの夫）、アラン牧師夫妻、ステイシー先生＝小学校の教師。Green Gables はカスバート家の「緑の切妻屋根」のことである。

少ない。つまり、 有生性の有無[3]が NP と N の違いの一つの鍵となっている。この結果は多くの先行研究と一致する。例えば、Taylor (1996:219)は自身の調査では “possessors”の 77%が人間だったこと、逆に “possessees”は Brown (1983) [4]によると 97%が無生物であったこと、さらに多くの研究結果も同様であると述べている。尚、第 1～第 3 の特徴として示したこの NP と N の非対称性は 3.1 節で紹介する「参照点構造」のベースとなるものである。

第 4 の特徴は、NP の定有生名詞 453 の内、固有名詞が 377(83%)を占めることである。つまり、 “this man / the man”等の指示詞/定冠詞＋名詞、または “his mother”等の代名詞＋名詞よりも、 “Anne”等の固有名詞が NP として典型である。この結果も先行研究と一致する。Dean (1987:68)は談話においてトピック性の担いやすさを示している“Silverstein Hierarchy” [5]を用いて所有表現の適切性を説明している。その適切性の順番は、1=my foot / 2=his foot / 3=its foot / 4=Bill's foot / 5=my uncle's foot / 6=the man's foot / 7=the dog's foot / 8=the bicycle's handle / 9=the house's roof / 10=the century's beginning / 11=his honor's nature / 12=Israel's nation であった。固有名詞は所有代名詞についで好まれている。

次に、NP として多用されている固有名詞の特徴を Langacker (1991/2008)、Dowing (1996)そして Wales (1996)から見ていく。

まず、Langacker (1991:59)は、 “Stan Smith”のような標準的固有名詞は様々な情報 -タイプ特定・性・数- を示すと述べている。加えて、発話・参与者を具体的な場に結び付ける “grounding”の働きもあり、話し手と聞き手がその名前だけで特定できる唯一性ももっている。さらに、“Stan Smith”は人間・男性をプロファイルしていることから、それに関する様々なドメインを喚起するのである(Langacker 1991:60)。

次いで、Langacker (2008:316-318 10.1.3)は、固有名詞に関する伝統的な通説―固有名詞はタイプを記述せず、また意味も持たず、その役割は単に世界における何かを指示することのみにある―に異を唱えている。多くの固有名詞は特定のタイプの実体に対して慣習的に用いられている（例 : Jack は人間の男性)。さらに、スピーチコミュニティにおいて広く共有されている関連する百科事典的知識をも想起させ、それらは定着そして慣習化され固有名詞の意味にある程度含まれている（例：George Washington・Chicago は関連する様々な情報を想起)。

従って、固有名詞の特徴は意味を持たないというのではなく、その意味の本質にある。その第一要素は関連する社会的グループにおいてその形式がどのように用いられているかという認知モデルにある。理想化されたモデルにおいては、グループの各々のメンバーは識別可能な名前を持ち、結果としてその名前のみで同定することができる。例えば、Jack という名前はグループにおいて唯一の人物を指示しており、さらに「ジャックと名付けられた人物というタイプ」

[3] Rosenbach (2002:42-49)は“the notion of animacy”と s-genitive および of-genitive との密接な関係についてこれまでの豊富な研究をまとめている。

[4] Brown, C. (1983) “Topic continuity in written English narrative.” In Givón (ed.) *Topic Continuity in Discourse: A Quantitative Cross-Language Study.* Amsterdam: Benjamins. pp.315-41.

[5] Silverstein, Michel (1976) “Hierarchy of features and eargativity.” In Dixson, Robert W. (ed.) *Grammatical Categories in Australian Languages*. Canberra: Australian Institute of Aboriginal Studies. pp.112-171.

を特徴づけている。さらに、名前そのものが唯一の例を示しているので別のグラウンディングを必要としていないのである。

次の Dowing (1996)は、固有名詞を英語会話における指示オプションの一つとして Kamio(1994)[6]の「情報の縄張り理論」から研究している。まず固有名詞の使用は話し手と聞き手の両者がその指示対象者についてある程度の知識を持っていることを含意している(Dowing 1996:136)。固有名詞と他の指示オプション間の選択には、話し手の談話トピックへのある位置を保ちたい、また会話参与者間の相互関係を操作したいという希望が関わっている (Dowing 1996:95)。参与者間相互関係とは、指示対象者の呼称方法次第で参与者の指示対象者との親疎に関する力関係が表現されるという意味である。例えば、“Jack” に代わり“this Jack guy”や “a guy named Jack”が使われることがあるが、その場合には、話し手は Jack が話者の情報の縄張りにおいて周辺状態にあること、そして聞き手の Jack に関する縄張り状態より劣っていることを示している (Dowing 1996:125)。

指示対象者にどの指示語を用いるかというこの点について、Wales (1996:44)は、非常に興味深い例を示している。親しい人に対して固有名詞ではなく代名詞を用いることはその人への距離をとった冷淡な態度の表れになる場合があるとのことである。

> Pronouns are commonly used to refer familiarly to people present; however, it can be a sign of animosity to refer to someone you know well by a pronoun rather than their name; in the so-called ‘Squidgy’ tape from late December 1989 Princess Diana consistently refers to Prince Charles as he. This is comparable to the (mock?) dismissiveness in Arthur Daley’s use of Her Indoors[7] to refer to his wife in the television series Minder. Wales (1994:44)

上述の研究成果から、固有名詞は会話参与者に与える情報量が多いことがわかる。そして話し手が固有名詞を使うことは、少なくとも次の 4 点を示している可能性がある：1)話し手は他の呼称選択肢がある中で固有名詞を選択している、2)話し手は指示対象者について何らかの知識または近しい関係を持っており、その表明を希望している、3)話し手は聞き手もその指示対象者についてある程度知っていると思っている、4)指示対象者は関連する社会的グループにおいて「～という名のタイプ」として示され、その人物に関する様々な領域の情報が喚起される。

従って、“Anne’s N”とすることで、 “Anne”がある社会的グループにおける一つの「タイプ」として示され、かつ “Anne”の様々な領域を聞き手に喚起させ、 会話参与者の“Anne”に対する親近観や知識、あるいは作者の目を通して登場人物の親近観や知識を表していると言えるだろう。 “Anne”の二度目の言及ならば“her” N でも文法的に問題はないにも関わらず、より複雑な

[6] Kamio, Akio (1994) “The theory of territory of information: the case of Japanese.” *Journal of Pragmatics* 21. pp.67-100.
[7] 英国 TV シリーズ Minder の中で Arthur Daley が“I've just bought a present for her indoors, it's our anniversary.”のように自分の妻を “her indoors”と自分の友人に伝える用法のこと。

形式を持つ "Anne's"が用いられるのはこのような背景と表現効果が考えられる。そして、この固有名詞の特徴は 3.2 節「独立所有格」の分析において重要となる。

このNP's にはさらなる特質があり、それはNP 指示物のトピック化と言われている。このトピック性[8] は NP's N の議論の中で 有生性に次いで指摘されている重要な特徴であり、3.1 節「不定 NP's N」の分析におけるキーワードとなる。

Dean (1987:72)は、Riddle (1984)[9]による 1182 例のコーパス研究結果に基づき、"Prenominal possessives occur in constructions where the possessor was topical; post possessives, in constructions where the possessed noun was topical" と主張している。つまり、NP's N は所有者が topical のとき、of-genitive は所有される名詞指示物が topical のときに使われる。Dean(1987:72-73)はその証拠として下記の 5 例(3～7)を挙げている。□および下線は筆者による。

(3) (Public Poster): A meeting of Overeaters Anonymous will take place at <u>the home of Agnes Levy</u>, 184 Elm St., on… Dean (1987:72)

- 公共ポスターとして適切。なぜならば、所有者を新情報・焦点として扱っている。公共ポスターの読者は Agnes Levy が誰なのかを知っているとは期待されていない。

(4) (Public Poster): ??A meeting of Overeaters Anonymous will take place at Agnes Levy's home, 184 Elm St., on… Dean (1987:72)

- 公共ポスターとして不適切。なぜならばこれは所有者を topical information として扱っており、読者が Agnes Levy を知っているという前提になっている。

(5) (from an actual invitation)

1 What: A Birthday Party　　2 Who: For Amy Lindsey

3 When: 2:00 on Saturday afternoon　　4 Where: Amy's house

Dean (1987:72)

- ここでは Amy は topical で招待状の最後にでてくる背景化された情報。したがって s-genitive は自然。of-genitive はまったく問題外。

(6) Susan: How are you doing with <u>your rental properties</u>?

Jane: Oh, pretty good. I've got the shop all fixed up now, but several of the house's windows still need to be replaced. Dean (1987:72)

- rental properties が前に述べられているので the house はトピックである。

(7) Susan: How are you doing with <u>your rental properties</u>?

Jane: Oh, pretty good. I've got the shop all fixed up now, but several of <u>the windows of the house</u> still need to be replaced. Dean (1987:73)

- この場合は、何かの理由があり、the house を強調していることになる。

---

[8] Rosenbach (2002:49-57)はトピック性についての詳細な研究成果を、そして Taylor (1996:205-235)は後述する参照点構造からのトピックについて説明している。

[9] Riddle Elizabeth (1984) "The English Possessives as topic-focus structures." *Paper presented at the 1984 LSA meeting at Baltimore*.

つまり、“Anne's N”の場合には、“Anne”は会話参与者との親近観や知識の共有を表すのみならず、会話におけるトピックを表していることになり、「トピックである私たちが知っているアンのことについて言うと、N ですね」と N はアンのコメントと考えられる。

最後に、NP's N の用法について取り上げる。表 2 は本論のデータに基づく N の指示対象別の用法分類である。

表 2. NP's N の用法[10] (Ref. Appendix A～J)

総数 ＝516		NP 固有名数 377	NP 代名等数 82	総数 516	N 指示物 %	NP's N used in *Anne of Green Gables* 用　例
定有生物 NP's＝453						
A	N＝ もの	32	5	**37**	**7.1%**	Anne's outfit
B	N＝ 身体部位	74	17	91	17.6%	Anne's tragic face
C	N＝ 人物	30	9	39	7.5%	Jane's mother
D	N＝ 場所	93	9	102	19.7%	Aunt Josephine's house
E	N＝ 人物叙述 **E/F 184=36%**	148		148	28.6%	Anne's apology
F	発話/動作/認識/感情/意志/特色		36	36	6.9%	her afternoon's enjoyment
定無生物名詞 NP's						
G	N＝Misc. 無生物		6	6	1.1%	the day's pain and excitement
不定生物名詞 NP's						
H	N＝Misc. 有生=12 無生=26			38	7.4%	a little orphan girl's dress
不定無生物名詞 NP's						
I	N＝Misc. 無生物			6	1.1%	a moment's reflection
成句 J	N＝Misc.			13	2.5%	for pity's sake

この中で“The possession gestalt”[11] (Taylor 1996:340)条件とほぼ一致しているのは「A もの N」の 37 例で全体の約 7%にしか過ぎない。(1)がその例である。逆にもっとも多数を占めるのが、NP の指示人物についてその発話・動作・認識・感情・意志・特質等を述べている「EF 人物叙述 N」の 184 例であり、約 36%を占める。(2)がその例で N は NP アンの行為について描写している。

[10] Quirk, etc.(1985:321-322)による分類

(1) Possessive Genitive - *Mrs. Johnson's* passport
(2) Subjective Genitive - *the boy's* application
(3) Objective Genitive - *the family's* support
(4) Genitive of Origin - *the girl's* story
(5) Descriptive Genitive - a women's college
(6) Genitive of Measure - ten day's absence
(7)Genitive of Attribute - the victim's courage
(8) Partitive Genitive - the baby's eyes

[11] Taylor (1996:340) “The possession gestalt”

a. The possessor is a specific human being.
b. The possessed is an inanimate entity, usually a concrete physical object.
c. The relation is exclusive, in the sense that for any possessed entity, there is usually only one possessor. On the other hand, for any possessor, there is typically a large number of entities which may count as his possessions.
d. The possessor has exclusive rights of access to the possessed. Other persons may have access to the possessed only with the permission of the possessor.
e. The possessed is typically an object of value, whether commercial or sentimental.
f. The possessor's right of access to the possessed are invested in him through a special transaction, such as purchase, inheritance, or gift, and remain with him until the possessor effects their transfer to another person by means of a further transaction, such as sale or donation.
g. Typically, the possession relation is long term, measured in months and years, not in minutes or second.
h. In order that the possessor can have easy access to the possessed, the possessed is typically located in the proximity of the possessor. In some cases, the possessed may be permanent or at least regular accompaniment of the possessor.

(1) She deliberately picked up Anne's clothes, placed them neatly on a prim yellow chair, and then, taking up the candle, went over to the bed.

(2) The birches in the hollow waved joyful hands as if watching for Anne's usual morning greeting from the east gable. But Anne was not at her window.

描写の効果について NP's N による(8-a)と文形式(8-b)を比較してみる。文形式(8b)の場合には、少女が大げさな言葉を使い芝居がかった身振りをしたという、その行動が焦点化される。一方、NP's N(8-a)の行為描写はその行為がアンと密接な関係がある、あたかもアンの特徴であるかのように叙述され、それは NP's N の形式だから伝えることができる人物描写と思われる。

(8) (a) This speech which would have softened good Mrs. Lynde's heart in a twinkling, had no effect on Mrs. Barry except to irritate her still more. She was suspicious of Anne's big words and dramatic gestures and imagined that the child was making fun of her.

(b) Anne used big words and made dramatic gestures. That made Mrs. Barry suspicious of Anne's attitude and imagined that the child was making fun of her.

- 背景：アンは果汁入り清涼飲料と間違えてワインをダイアナに飲ませダイアナを酔わせてしまった。激怒したダイアナの母に謝る。"Anne's big words and dramatic gestures"→空想やとお話しが好きで大げさなジェスチャーでそれを表現するアンの特徴
- 16 章 地の言葉：人のいいリンド夫人の気持ちなら瞬時に和らげてしまうと思われるこの言葉（=アンの謝罪の言葉）はバリー夫人にはまったく効き目がなく、ただ、余計に彼女をいらだたせただけだった。バリー夫人はアンの大げさな文句や芝居がかった身振りをうさんくさく思い、この子は自分をからかっただけなのではと思った。

このように NP's N において NP が指示する人物についての N による叙述関係が見られるのには、次の 4 点の影響が考えられる。第 1 に NP が N と直接に繋がり一つの塊を成すことにより両者の密接な関係を表していること。第 2 に NP がトピック性を示すこと。第 3 に、NP に使われている情報量の多い固有名詞が「タイプ」を示し、かつその人物の様々でかつ独自の領域を喚起すること。

そして第 4 として、N の叙述には抽象名詞がよく使われているが(ref. Appendix 表 EF)、この抽象名詞の使用を許容することが NP's N の特徴の一つであることが挙げられる。Dean (1987:69-70)は、抽象名詞は NP's N 型の使用には全く問題無いが、of-genitive の場合は容認度が下がり "In the post nominal possessive, third person pronouns form the cut-off point."と言っている。そこから注目すべきは固有名詞の(12ab) "John' loyalty"と "?the loyalty of John"の容認度の違いである。従って、of-genitive と比較し、NP's N は人物叙述に適している形式ということになる。

表 3. Dean (1987:69-70)　抽象名詞　口と下線は筆者による

NP's N　s-genitive	of-genitive
(9-a) My loyalty must not be questioned.	(9-b) *Just consider the loyalty of me to stand there so long.
(10-a) Your loyalty must not be questioned.	(10-b) *Just consider the loyalty of you to stand there so long.
(11-a) His loyalty must not be questioned.	(11-b) ?Just consider the loyalty of him to stand there so long.
(12a) John's loyalty must not be questioned.	(12-b) ?Just consider the loyalty of John to stand there so long.
(13-a) His uncle's loyalty must not be questioned.	(13-b) Just consider the loyalty of his uncle to stand there so long.
(14-a) His friend's loyalty must not be questioned.	(14-b) Just consider the loyalty of his friend to stand there so long.
(15-a) The carpenter's loyalty must not be questioned.	(15-b) Just consider the loyalty of the carpenter to stand there so long.
(16-a) The city's loyalty to its founder was beyond doubt.	(16-b) Just consider the loyalty of the city.
(17a) ??I would often meditate on love's loyalty.	(17-b) Just consider the loyalty of love.

上述したように、本論のデータは"Anne"のような情報量の多い固有名詞 NP がトピックとして機能し、N がその NP を叙述する用法が典型であることを示している。とすると、この叙述用法と(1) "Anne's cloth"のような所有用法はどのような関係[12]があるのか、また表 2 で示した NP's N の全ての用法に共通項はあるのか、それは何なのかが問題となる。次節ではそれに対する Langacker の提言を示す。

3. 動的な参照点構造

本節では、参照点構造から、不定 NP's N(3.1)、独立所有格(3.2)そして N の指示物の情報構造(3.3)を議論し、参照点構造の動的性質を示す。

3.1. 不定 NP's N：先行談話とドメイン "a minister's wife"・イディオム "(on) one's mind"

本節では 1)Langacker が提唱する参照点構造を紹介した後、その構造を持たないのではと見られている不定 NP's N について 2)参照点構造の動的な性質と 3)イディオムという観点から説明する。

前節で示した NP's N の諸用法間の問題についての Langacker の提言は次のとおりである。まず、Langacker (1991:167-180) "4.3.2 Possessive Constructions"では、 "It is widely appreciated that the linguistic category of possession does not reduce to any single, familiar value, such as ownership."(p.169)、この"possession"の言語カテゴリーを一つの意味、例えば "ownership"の様な日常的な意味に還元することはできず、そのことは広く認識されている、と述べている。

次に、Langacker (1993:7)は "my watch"のような "ownership"から "her cousin, your foot, the baby's bib, his rook, our host, their group, Sara's office, the book's weight"へメタファー的に拡張しているという説明には問題があると指摘している。その問題の第 1 は、基本的・非メタファー的意味が明確にされておらず、単に "possession"というのでは論理の循環となる。第 2 に普遍的[13]

[12] Taylor (1989:665-666): "John's photograph"について①ジョンの所有・②ジョンによる撮影・③ジョン自身の写真と 3 つの意味があり、 "semantic indeterminacy"「意味の不確定性」が以前より指摘されている。
[13] ref. 諸言語の "possession"に関しては Heine (1997)を参照。

でかつ児童の早期発話にもみられる “possessives”を説明するには、“ownership”概念はあまりに複雑でかつ文化的特徴差異がありすぎる。第 3 に、メタファー的拡張という説明は“target domain”が“source domain”に基づいて理解されている場合にのみ妥当である。

そして結論として、Langacker (1991:171)/(1993:8)/(1995:61～)/(2017:177)は、2 節で示した NP と N の非対称性から、NP's N は参照点構造を持ち、それにおいて抽象的所有を表すと主張している。

> With respect to this model (the referent-point model を指す), we can define a notion of **abstract possession** that represents what all possessive expressions supposedly share.
>
> Langacker (1991:171)

> What all possessive locutions have in common, I suggest, is that one entity (the one we call the possessor) is invoked as a reference point for purposes of establishing mental contact with another (the possessed), as sketched in Figure 2 and 3. And instead of assuming that any one concept (like ownership) necessarily constitute a unique clear-cut prototype and basis for metaphorical extension, I propose that the category clusters around several conceptual archetypes, each of which saliently incorporates a reference-point relationship: these archetypes include ownership, kinship, and part-whole relations involving physical objects (the body in particular). Langacker (1993:8)

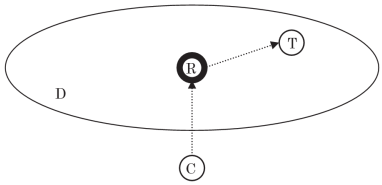

図 1. Langacker (1993:6 Figure 2)　参照点構造

C=Conceptualizer 認知主体
R=Reference point 参照点
T=Target ターゲット
D=Dominion 参照点によって限定されるターゲットの支配領域
破線矢印=mental path (認知主体が参照点を経由してターゲットに到達していくメンタルコンタクト)

典型的には定性を持ちかつ有生という非常に際立つ要素を持つ“possessor” NP が参照点となり、ターゲットであるより際立ちの低い、多くは無生物の “possessed” N へ到達していくメンタル経路を NP's N は持っているのである。

Taylor (1996:15-17)も同様の意見を持っている。加えて、NP の周辺を探すことにより容易に話し手が意図する N を見つけられることを、話し手は聞き手に伝えていると説明している。

- The first point to note is that prenominal possessives (also invariably) have specific reference: generally, prenominal possessives also have definite reference. Taylor (1996:15)
- The prenominal possessive construction provides the speaker of English with a rather special device for ensuring definite reference, in that the construction gives the hearer a clue as to how he, too, can establish mental contact with the referent intended by the speaker. ditto p.16

- The special character of the possessive construction lies in the fact that it invites the hearer to first evoke the possessor entity, and conveys that the referent of the possessee nominal is to be located in the neighbourhood of the possessor. The import of the possessor phrase is thus to *make explicit the mental path that the hearer must follow in order to identify the target*. Slightly elaborating on Langacker's analysis, we may say that in opting to use a possessive expression, the speaker is *instructing the hearer on how best to identify the referent that he, the speaker, intends*. ditto p.17

しかしながら、この定名詞句における参照点機能とは異なる範疇化機能を持つ不定 NP's N があると、Radden and Dirven (2007:158)は述べている。例えば、 "a mother's worries"は "worries"の一種またはサブカテゴリーである「母たちが自身の子供たちに持つであろう心配」を示している。 このような例においては、 "possessive qualifier" は 総称的である。この種別を表す "genitive constructions"は定着化が進むと語彙的複合語へと変化し、新たな意味を獲得していると説明している。 従って、"a bridesmaid"は "a maid"ではなく、結婚式当日の花嫁付き添い役の若い未婚女性を意味するようになっている。

> Besides its referential function in definite noun phrases, the genitive 's also has a categorizing function in indefinite noun phrases, as in the phrase *a mother's worries*. Here the possessive relation designates a kind, or subcategory, of worries, e.g. the worries mothers may have about their children. Likewise, *a doctor's degree*, *a summer's day* is a kind of day, and *a man's voice* is a kind of voice. In all these examples, the possessive qualifier is generic. These classifying genitive constructions may become so deeply entrenched that they shade over from classifying phrases into lexicalized compounds and develop new senses of their own. Thus a *bridesmaid* is not a maid, but an unmarried young girl accompanying the bride on the day of her wedding, and a *statesman* is not just a kind of man but a wise, fair and honourable leader. Radden and Dirven (2007:158)

「種類を表現する不定 NP's N は参照点機能を持つ NP's N とは別種である」と整理されている背景には、不定冠詞+名詞の NP's は総称性を示すことから際立ちが低く参照点になり難く、N をターゲットとするメンタル・コンタクトを示すことができない。つまり、参照点構造を持ち難いとする考えがあるものと思われる。確かに、本論のデータにおいても不定 NP's N（表 H/I）は 44 例と非常に少ない周辺的事象であり、NP's N のプロトタイプから遠く離れ複合語へと近づいているという説明[14]は様々な言語事象の連続性から考えると説得的である。

[14] Taylor (1996:297-300 11.2.2 Indefinite and generic possessors): 不定または非特定的 "possessors"を持つ "possessives"(例 a man's skull)はトピック性が低い可能性がある周辺的例であり、"possessives"と "compounds"の間に位置するもの。

しかしながら、本節ではこの不定 NP's N について、それとは異なった二通りの説明も可能であることを述べる。一つは参照点構造[15]からの説明で、先行談話により活性化されたドメインにおいては際立ちの低い不定 NP も NP として必要なトピック性を得て参照点として十分に機能することを説明する。このトピック性は 2 節で説明したように NP の重要な特徴の一つである。もう一つはイディオムという観点からの説明である。

まず、参照点構造からの説明である。Radden and Dirven (2007:158)の"a mother's worries"は「心配の中の『母の子供に対する心配というもの』」という下位範疇を表す総称表現である。本論のデータにも類似の表現があり、ここでは 5 例を取り上げる。尚、例文中の下線は筆者による。

最初に紹介する(18) "a minister's wife"と (19)"a person's name"においては、NP そして N とほぼ同じ言葉が先行談話に繰り返し使われているのが特徴である。

(18)"a minister's wife"は、アヴォンリー村に着任したての若い新婚のアラン牧師夫妻が村中の話題となっている場面で使われている。そのアラン夫妻が停車場から来るところを見たアンが、アラン夫人についてマリラに伝えている発話に a minister's wife が登場する。

(18) And besides, we met ①the new minister and his wife coming from the station. …… ②His wife is very pretty. Not exactly regally lovely, of course--it wouldn't do, I suppose, for ③a minister to have a regally lovely wife, because it might set a bad example. Mrs. Lynde says ④the minister's wife over at Newbridge sets a very bad example because she dresses so fashionably. ⑤Our new minister's wife was dressed in blue muslin with lovely puffed sleeves and a hat trimmed with roses. Jane Andrews said she thought puffed sleeves were too worldly for ⑥a minister's wife, but I didn't make any such uncharitable remark, Marilla, because I know what it is to long for puffed sleeves.

- 21 章　アンの言葉：私達の新しい牧師さんの奥さんは素敵なふくらんだ袖の青いモスリンのお洋服と薔薇の飾りのお帽子をかぶっていらしたのよ。ジェーン・アンドリュースはふくらんだ袖なんて

---

[15] Langacker (1993:25)は、もし "Sally's dog"の Sally が a local topic と考えられるならば、これはトピックカテゴリーにおいては周辺的である。そして同様に所有の概念を拡張した場合、"(20) sakana wa tai ga oisii" の sakana は周辺的 possessor となると説明している。そしてその note として下記を記している。

> Corroborating this suggested relationship between possessives and topics are expressions like *ship's cook* and *potter's wheel*, where the possessive ending attaches to a noun (rather than a full noun phrase) to form a complex head noun (which is likewise not itself an NP – for NP status a determiner must be added, e.g. *a ship's cook*). In such combinations the possessor noun does not refer to a particular individual but merely provides a type specification (FCG2:ch.). Like the topic *sakana* 'fish', it is a reference point in the sense that it specifies a domain of knowledge that must be accessed in order to properly interpret the second noun (the target).　　Langacker (1993:36-37)

possessives と topics 間の関連を裏付ける表現として、"ship's cook"（船舶のコック）・ "potter's wheel"(陶工のろくろ)があり、これらにおいては possessive ending は一つの名詞と組み合わされてはいるが、その名詞は決定詞に欠けていることから a complex head noun を形成している。このような組み合わせにおいて、possessor である名詞は特定の個を指示しているのではなく、単にタイプの特定を提供している。トピックである sakana と同様に、2 番目の名詞の適切な解釈のためにアクセスされなくてはならない知識の領域を特定しているという意味において参照点として機能している。

とするならば、Radden and Dirven (2007:158)の "a mother's worries"においても、 "mother"は "worries"の適切な解釈のためにアクセスされなくてはならない知識の領域を特定する参照点として機能しており、決定詞 "a"はそれが一つの種類であることを伝えていると考えられる。

牧師の奥さんにはあまりに俗っぽいって思うって言ったの。でも私はそんなひどいこと言わなかったわ、マリラ。だって、ふくらんだ袖に憧れるってどんな気持ちかよくわかるのですもの。

この文章が示しているのは当該の “a minister’s wife”がいきなり用いられているのではないことである。最初に定表現で①“the new minister and his wife”と②“his wife”が言及され、その次に、③“a minister”「牧師というもの」と総称表現が使われ、さらに、再び定表現④ “the minister’s wife over at Newbridge” / ⑤“Our new minister’s wife”が使われている。そして⑥総称表現 “a minister’s wife”「牧師の妻というもの」が登場している。「牧師夫妻」そして「牧師の妻」が繰り返されており、このような先行談話から “a minister’s wife”を探すドメインはすでに活性化している。そこから際立ちの低い不定名詞 “a minister”も十分なトピック性を得て参照点として機能できるのではないだろうか。

(19)“a person’s name”は、マリラがアンに両親のことを尋ねている場面で使われている。アンの発話の中には、定表現 ①“My father’s name” / ②“My mother’s name”と「人’名前」が二回続きそのあとに③④ “names”が 2 回出てくる。それに対するマリラの発話の中に ⑤“a person’s name”「人の名前というもの」が使われている。人名に関するドメインは十分に活性化している。

(19) “I was eleven last March,” said Anne, resigning herself to bald facts with a little sigh. “And I was born in Bolingbroke, Nova Scotia. ①My father’s name was Walter Shirley, and he was a teacher in the Bolingbroke High School. ②My mother’s name was Bertha Shirley. Aren’t Walter and Bertha lovely ③names? I’m so glad my parents had nice ④names. It would be a real disgrace to have a father named--well, say Jedediah, wouldn’t it?” “I guess it doesn’t matter what ⑤a person’s name is as long as he behaves himself,” said Marilla, feeling herself called upon to inculcate a good and useful moral.

- 5 章　マリラの言葉：「人の名前なんかたいしたことないと思うがね、もしその人がちゃんとさえしていればね。」と正しくて役に立つ教訓を教え込まなくてはいけない気持ちになったマリラは言った。

次の (20) “a First Class teacher’s license”と (21)の “a lady’s ring”では、NP と N の指示物に関連する指示物を指す言葉が先行談話で複数回使われているのが特徴である。

(20) “a First Class teacher’s license”はクイーン学院での初日を迎えているアヴォンリー村出身の一年生の描写の中で使われている。①「アヴォンリー村出身学生」、②「学院」、③「新入学生」、④「教授」、⑤「クラス分け」、⑥「二年分課程」という言葉が続いており、 学業に関するドメインは十分活性化されている。そこでの ⑦“a First Class teacher’s license”であり、「一級(地方)教員」から「免許書」へのメンタルパスは十分可能ではないだろうか。

(20) Anne and the rest of ①the Avonlea scholars reached town just in time to hurry off to ②the Academy. That first day passed pleasantly enough in a whirl of excitement, meeting all ③the new students,

learning to know ④the professors by sight and ⑤being assorted and organized into classes. Anne intended taking up ⑥the Second Year work being advised to do so by Miss Stacy; Gilbert Blythe elected to do the same. This meant getting ⑦a First Class teacher's license in one year instead of two, if they were successful; but it also meant much more and harder work.

- 34 章　地の文：これが（=二年分課程）が意味していたのは、地方教員免許書を２年ではなく１年で取得することだった、もしギルバートとアンが試験に及第できたらだが、それはまたさらなる大変な猛勉強を意味していた。

(21)"a lady's ring"はアンがマリラの紫水晶のブローチを見て賞賛をしている場面で使われている。①「完璧なまでエレガントなブローチ」、②「アメジスト」、③④「ダイアモンド」、⑤「美しく輝く紫の石」と、婦人用宝飾品に関する言葉が多く先行談話の中に出ている。婦人用宝飾品に関するドメインはすでに活性化していることから、関連する言葉⑥不定 "a lady"が参照点として働きターゲットの "ring"へ繋がることはけして困難ではない。

(21) Oh, Marilla, it's ①a perfectly elegant brooch. I don't know how you can pay attention to the sermon or the prayers when you have it on. I couldn't, I know. I think ②amethysts are just sweet. They are what I used to think ③diamonds were like. Long ago, before I had ever seen ④a diamond, I read about them and I tried to imagine what they would be like. I thought they would be ⑤lovely glimmering purple stones. When I saw a real diamond in ⑥a lady's ring one day I was so disappointed I cried.

- 13 章　アンの言葉：ある時、私が婦人用指輪についている本物のダイヤモンドを見たとき、とてもがっかりして声をあげてしまったの。

最後の(22)"a little orphan girl's dress"では前提またはこの物語のテーマである言葉が使われているのが特徴である。この表現はマリラがアンに用意した数着の洋服の中にはアンの憧れの「ふくらんだ袖」の服はなかったと嘆くアンの言葉の中に出てくる。NP "a little orphan girl"は直前の談話に出ておらず、また関連する言葉も全く使われていない。しかし、アンが孤児であるというのは物語の大前提でありテーマである。そして先行談話の中でNの洋服のことにも触れられていることから、 "a little orphan girl"は容易に "dress"の参照点となると考えられる。

(22) "I did hope there would be a white one with puffed sleeves," she whispered disconsolately. "I prayed for one, but I didn't much expect it on that account. I didn't suppose God would have time to bother about a little orphan girl's dress. ……"

- 11 章　アンの言葉：私、ふくらんだ袖のお洋服を一つは下さいってお祈りしていたの。でもそんなことにお祈りが叶うってあまり期待はしていなかったの。神様は小さな孤児の女の子の洋服のことなんかにかまうひまはないと思ったから。

上掲の 5 例においては、NP に前提/テーマである言葉が使われ、または NP そして N とほぼ同じ言葉やその指示物に関連する言葉が先行談話に複数回繰り返され、参照点構造におけるドメインが膨らみ活気を帯びるという変化を見せている。そのことにより、際立ちの低い不定 NP も NP として必要なかつ十分なトピック性を得て参照点として機能し、そしてターゲットもより見出し易くなっていると考える。

ターゲットを見出すべきドメインは固定されているものではなく、それはコンテキストの展開に伴い変化しているのである。そしてこの変化は Langacker が主張している動的な参照点構造の一つの表れではないかと考える。

> It should further be noted that a reference point's salience has a dynamic aspect.
>
> Langacker (1993:6)
>
> A referent point relationship is often conflated with specific conceptual content, such as spatial proximity in (25)(a)[16]. Still, its essential semantic import resides in the very act of mental scanning: evoking first the reference point and then a target it renders accessible. It is thus inherently and quintessentially dynamic, for how it unfolds through processing time actually constitutes its value.
>
> Langacker (2008:84)

次に、不定 NP's N の中にはすでにイディオム化していると考えられる事例があることを述べる。 (23～26)の表現は辞書に別記されており成句に近い性質をもっている。慣用されることにより、塊として特別な意味を成すようになったのであろう。Taylor (2012)が主張しているように、言語にはイディオムが溢れ、母語話者の頭の中にはその塊として存在していると考えられ、NP's N にもそのケースを見ることができると考える。

(23) "(on) one's mind" = 「心/気にかかって・念頭を去らないで」

"I'm real glad you like it. Take as much as you want. I'm going to run out and stir the fire up. There are so many responsibilities on a person's mind when they're keeping house, isn't there?"

- 16 章　マリラの留守を預かりダイアナをお茶に接待しているアンの言葉:「家のきりもりをするのって、沢山の責任が気にかかるってことじゃない？」

(24) "(set) one's heart (on X)" =「Ｘに対して心を注ぐ」・「Ｘに思いを寄せる」

She had an uneasy feeling that it was rather sinful to set one's heart so intensely on any human creature as she had set hers on Anne, and perhaps she performed a sort of unconscious penance for this by being stricter and more critical than if the girl had been less dear to her.　（下線は筆者による）

- 30 章　地の文：感情を表すことが苦手なマリラのアンに対する愛情表現の場面　：彼女(=マリラ)は自分がアンに対して心を注いでいるように人に対して思いを深く寄せるということは、むしろ罪深

[16] Langacker (2008:83) (25)(a): *Do you see that boat out there in the lake? There's a duck swimming wright next to it.*

いことなのではないかと、落ち着かない気持ちでいた。そして彼女はその少女が彼女にとってむしろ愛しいものではないかのようにより厳しくそして批判的にふるまうことによって、ある種の罪滅ぼしを無意識にしていたのだろう。

(25) "(hurt) one's feelings" = 「感情を害する・傷づける」

Well, anyway, when I am grown up," said Anne decidedly, "I'm always going to talk to little girls as if they were too, and I'll never laugh when they use big words. I know from sorrowful experience how that hurts one's feelings.

- 18 章　大人に対するのと同じような礼儀正しい扱いを受け喜ぶアンの言葉　:「小さい女の子たちの大げさな言葉づかいを面白がるのは気持ちをどんなに傷つけることだって、自分の悲しい経験から知っているのだもの。」

(26) "(at) arm's length" = 腕いっぱいの距離

Gilbert reached across the aisle, picked up the end of Anne's long red braid, held it out at arm's length and said in a piercing whisper: "Carrots! Carrots!"

- 15 章　地の文：　学校でこの日が初対面の男子生徒ギルバートはアンをふりむかせようとする　:ギルバートは通路越しに腕を伸ばし、アンの長くて赤い三つ編みの端をとるとそれを腕いっぱいにぐっと伸ばして、するどくささやいた「にんじん！にんじん！」

これらの他にも辞書に「成句」として記載されている "for pity's sake"は 7 回、その類似表現は 3 回、さらに "on X's side"も 3 回使われていた。

次節では、動的参照点構造の別の局面を取り上げる。

3.2. 独立所有格：焦点推移 "Mrs. Lynde's"・メトニミー "the doctor's"

本節では N の無い、NP'のみの独立所有格を 1)焦点推移そして 2)メトニミーという角度から説明する。

前節でも強調したように、参照点構造は動的なものである。その一局面の焦点推移について Langaker (2008:84-85)は次のように述べている。

> The first phase consists of mentally accessing the reference point, which is thereby placed in focus. Its activation creates the conditions for accessing elements of the reference point's dominion, one of which is focused as the target.　As focus shifts to the target, the reference point – having serviced its purpose – fades into the background.　Hence the reference point and target are both salient, each at a certain stage of processing.　Once focused, of course, the target provides access to its own dominion and may then be invoked as reference point to reach another target.　In this way we often scan along a **chain** of successive reference points.　　Langaker (2008:84-85)

そして Langacker (2008:85)は "a chain of successive reference points" の例として、 "Harry's cousin's

lawyer's therapist"を挙げている。

本論のデータからの焦点推移例としては「独立所有格」(absolute possessive)と呼ばれる(27～31)の N が無い"NP's"が相当すると考える。独立所有格は本論のデータでは 54 例あり、その中の 93%、50 例の NP は固有名詞である。従って、2 節で示した固有名詞の情報量の多さ - 会話参与者の指示対象人物への知識、指示対象人物の「～という名のタイプ」の提示と多様な領域情報の喚起 - が独立所有格の成立に少なからず影響を与えているものと考えられる。

そして、データは、二種のケースがあることを示している。一つは、省略されている N が先行談話ですでに述べられている事柄である独立所有格である。省略されている N が表す事柄が参照点となりターゲットとなる NP のみが言語化されているという焦点が推移するメカニズムであると考えられる(27-29)。ターゲットとなる NP は固有名詞が多いことから、前述したように、指示対象の様々な領域が喚起され、参照点からのメンタルパスを受け止めることができるのであろう。下記例文中の下線は筆者による。

(27) 参照点= "The nicest I ever drank" →drink　　ターゲット=Mrs. Lynde

"The nicest I ever drank," said Diana. "It's ever so much nicer than Mrs. Lynde's, although she brags of hers so much. It doesn't taste a bit like hers."

- 16 章ダイアナの言葉：ダイアナの「こんなおいしいものは飲んだことないわ」というセリフから「飲み物」が出てくる。この「飲み物」が参照点となりターゲットとして "Mrs. Lynde's" が登場している。
- 「これまで飲んだものの中で一番素敵だわ」とダイアナは言った。「これってリンド夫人のなんかよりずっと素敵だわ。でもリンド夫人はご自分のをとても自慢していらっしゃるけれどね。」

(28) 参照点= "We've each got a stumbling block" → a stumbling block

ターゲット=Mine, Jane, Ruby and Charlie and Josie

I don't know. Sometimes I think I'll be all right--and then I get horribly afraid. We've studied hard and Miss Stacy has drilled us thoroughly, but we mayn't get through for all that. We've each got a stumbling block. Mine is geometry of course, and Jane's is Latin, and Ruby and Charlie's is algebra, and Josie's is arithmetic.

- 31 章アンの言葉：　クイーン学院への入学試験を控えているという状況下で、「学友それぞれ苦手科目がある」と述べられている。そこから苦手科目が参照点となりターゲットが NP の学友の名前となっている。
- 私たちは皆それぞれネックになる科目があるの。私のはもちろん幾何学、ジェーンのはラテン語、ルビーとチャーリーのは代数、そしてジョシーのは算数なの。

(29) 参照点= "I always thought it(=religion) was kind of melancholy" →　religion/Christianity

ターゲット=Mrs. Aran

I never knew before that religion was such a cheerful thing. I always thought it was kind of melancholy, but Mrs. Allan's isn't, and I'd like to be a Christian if I could be one like her.

- 21 章アンの言葉　アンはマリラに牧師夫人であるアラン夫人と自分の宗教に対する考え方について話している。“I always thought it was kind of melancholy”から「宗教/キリスト教」が参照点となり、アラン夫人がターゲットとなっている。
- 私は前には宗教があんなに楽しいものだって知らなかったの。宗教って憂鬱なものって思っていたわ、でもアラン夫人のは違うの、そして私、できたら彼女みたいなクリスチャンになりたいわ。

二つ目のケースは直前の先行談話に参照点として働く N 相当の指示物が無い独立所有格であり、全独立所有格 54 例中で、35 例と多数を占めている。(30～31)が示すように、それは[D]場所 -house, field, store, academy 等- を表す N に見られ、その全ての NP は固有名詞を含む定性表現である。コミュニティや会話参与者間において、NP と N の密接な関係が周知された結果として、際立ちの高い NP のみが使われていると考えられる。これらは同じく参照点構造を持つメトニミーであると考えられる。

(30) “…… I thought maybe he was going to the doctor's.”　= “the doctor's (office)”

- 1 章　リンド夫人の言葉：「私はマシューがお医者さんのところに行く途中なのだろうと思ったよ。」

(31) Matthew felt that he must be sure of a man behind the counter. So he would go to Lawson's, where Samuel or his son would wait on him.”　= “Lawson's (store)”

- 35 章　地の文：マシューは男の売り子がいる店でなくてはならないと感じた。それで彼はローソンの店に行くことにした。そこではサミュエルか息子がマシューの相手をしてくれるだろう。

前節の不定 NP's N においても、使用が繰り返され慣用化するとイディオムとなる現象が見られたが、上記のメトニミーの例も慣用化の結果と思われる。

次節では、N を巡る二組の認知言語学者の意見の相違を検証する。

3.3. N 指示物の情報構造

本節では、N の指示物の情報構造について、1)Taylor (1996)による「談話における新情報」と Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009)の「新から旧情報までの連続体」という二つの異なる見解を紹介した後、2)本論のデータは後者 WDH と一致することを述べる。

本節では、Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009)の研究を出発点とし、N 指示物の情報構造を検討する。WDH は“prenominal possessive”(=NP's N) は参照点構造を持つとした上で、“the discourse status of the possessum (PM) referent” (N の指示物の談話状態)を明らかにすることを目的としている – “The central question of our analysis was whether the PM entity is a subsequent mention of a discourse referent or a first mention.” (WDH 2009:27)。　400 例の NP's N をデータとしている。

WDH(2009:13)は議論の冒頭で、N 指示物の情報状態についての二つの異なった意見を紹介している。一つは NP が定である、または NP が N の指示物の同定を推定させているという意見。

他方は圧倒的に新で以前には未知の N の指示物が、典型的には既知である NP 指示物に結び付けられることにより談話に投入されるという意見。この後者は Taylor(1996)の主張である。

> I have said little so far about the properties of possesses. But if possessors, as local topics, are likely to have given status, we could expect possesses to be exactly the opposite, that is, to be new, and non-topical. ……
> We see that possesses overwhelmingly introduce new, previously unnamed entities into the discourse. ……Furthermore, possessee entities are nearly always immediately dropped from the discourse. In other words, possessee entities are not only non-topical at the time of their mention, they also fail to achieve topicality in the following discourse. The crucial point, with respect to referent continuity, is that *possessee nominals are maximally differentiated from possessors*. The possessor is a *maximally topical nominal*, which functions as reference point for a *maximally non-topical possessee*.
> Taylor (1996:217-218) [17]下線は筆者による

WHD の分析結果によると、28%のみが完全な "discourse-new"、11%が "fully given"、そして多くの場合、N 指示物はある程度の情報 -隣接談話における記述・引用・報告そして先行談話の定指示物他からの推測- を先行テキストから得ているとのことである。

> Against the view of Taylor (1996) (who, projecting the asymmetric *reference-point* relation internal to NPs onto their discourse behaviour, predicts that PMs are overwhelmingly discourse-new and anchored to a typically given PR), we have shown that fully discourse-new PM referents present only a relatively small portion (28%) of the data. PM referents may also be 'anchored' to elements in the preceding text, which reduce its newness but do not make it recoverable in a strict sense. In the majority of the cases, however, the PM is given at least to some extent. It may be retrievable from extended descriptions, quotes or reports in the surrounding discourse, and it may be inferable from a given referent or other element in the preceding discourse. In a small but significant number of cases (11% of our data), finally, the PM turned out to be fully given, in the sense of being coreferential with given discourse referent.
> Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009:47) 下線は筆者による

[17] Taylor (1996:218) は "In brief, Givón's possesses were very much more topical than Brown's. This difference suggests that possessives invoking kinship relations may have rather different discourse properties than other kinds of possessive," とも述べている。Brown のデータは "written narrative" で、その 97%の "possessee" は非人間、一方、"an oral autobiographical narrative" の Givón のデータは親族関係が多いため繰り返されているケースが多いとも述べられている。

WHD は結論として、(a)NP's N は定冠詞または指示詞を伴う名詞句とは異なった同定メカニズムを持っている、(b)N の指示物の談話状態は談話における新旧と二分できるものではなく連続体であると主張している。

> We will propose that (a) possessive NPs have an identification mechanism different from that found in NPs with 1definite articles or demonstratives, and (b) the question of the discourse status of PM referents of possessive NPs cannot be reduced to a binary distinction between new or given in the discourse. …… we will argue that many PM referents have a discourse status in between fully given and fully new. For this range of discourse status we will propose a continuum-like classification. Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009:13)

次に本論の N 指示物のデータを、(表 4)WDH の分類基準[18]に従って見ていく。

A～E の付記は筆者による

表 4. Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009:27) Table 2 Discourse status of the PM referent

A Coreferential	the PM referent has been mentioned in the preceding discourse and is referred back to
B Text reference	the PM referent is text referent which is construed on the basis of the preceding discourse
C Inferable	the PM referent is inferable from an associated referent or a scenario in the preceding context
D Anchored	the PM referent is 'anchored' to (an) element(s) in the preceding discourse, which reduces its 'newness'
E New	the PM referent is newly introduced the possessive NP

[18] Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009)文例 原文は斜体

A: Coreferential 例 p.30 先行談話にて言及済

Britain's leading arms manufacturers secretly liaised with ministers, civil servants and the CIA on wys to silence the Saudi opposition leader Muhammed al-Masari, it was claimed last night. […] **Lawyers acting for Dr. al-Masari** were preparing yesterday to appeal against his removal. […] Dr. al-Masari's lawyers also allege that the hoe secretary decided to push ahead with the removal of the dissident in spite of a written pledge by the Home Office that his application to stay in Britain would be considered substantively. (CB=COBUILD Bank of English)

B: Text reference 例 p.34 先行談話内容に基づく

Thanks to the federal prosecutor in Munich, Compuserve subscribers no longer have access to 200 dubious and distinctly sad Internet newsgroups catering for people who think sex is an activity that can be pursued through a mouse and a modem. The Germans, in a fit of prudishness, told Comuserve it would be prosecuted if it did no stop allowing their citizens to leapfrog through the commercial service into the internet which is quite beyond the company's control and read the poison on their pcs. […] The prosecutor's decision was plain stupid. (CB)

C: Inferable 例 p.39 先行談話における関連指示物からの推論

Josephina Zacaroli-Walker is a businesswoman who became the star of **a comic strip** in a Japanese magazine. The strip's originator simply fell for the blonde and blue-eyed charms of the woman who has been the public relations face of Land Rover abroad, and who is now promoting Rover's saloons and hatchbacks as well as the new MGF around the world. (CB)

D: Anchored 例 p.43 先行要素にアンカーされている

Created in 1967 and based on a true story, Ashton depicts Elgar's friends visiting him after he had sent his score of his Variation to the famous Viennese composer Ritcher, to try and interest him in the work. (CB)

E: New 例 p.45 新規に導入

[about the Turnable Emergency Non-capsizable Triangular System] It can survive punctures in two of its surfaces and still remain afloat. Hunter has produced two prototypes and is in talks with a lifeboat manufacturer that could lead to the system's launch in the spring of next year. (CB)

A “Coreferential”（先行談話において言及済）については、3.1 節で取り上げた不定 NP’s N 例が当てはまる。(18) “a minister’s wife”・ (19) “a person’s name”・ (22)“a little orphan girl’s dress” の各々の N の指示物と同じ言葉が先行談話に複数回登場している。

B “Text reference”（先行談話内容に基づく）として 3 ケースを挙げる。第 1 に、3.2 節で取り上げた独立所有格例である。 (27)“the nicest I ever drank”という先行談話から “Mrs. Lynde’s”の省略された N が “ drink”であること、 (28)“We’ve each got a stumbling block”から “Jane’s”が “Jane’s stumbling block”であること、(29) “I always thought it(=religion) was kind of melancholy”から “Mrs. Allan’s”が “Mrs. Allan’s religion”であることを示している。

第 2 として、先行談話や背景説明文が無いと正確な解釈が難しい N 指示物(32～34)を挙げる。(32b)の“the Queen’s class”は「クイーン学院のクラス」ではなく、「クイーン学院受験者用補習クラス」を指している。しかしその理解には (32a)先行談話が必要である。

(32) (a) 先行談話　“Well, Miss Stacy wants to organize a class among her advanced students who mean to study for the entrance examination into Queen’s. She intends to give them extra lessons for an hour after school.”

- 30 章　マリラの言葉 :「さて、ステイシー先生がよくできる生徒の中でクイーン学院への入学受験勉強をする生徒のためのクラスを作りたいそうだよ。彼女は放課後に 1 時間の補習をしてくださるつもりだよ。」

(b) 後行談話　“So you can join the Queen’s class if you like, Anne.”

- 30 章　マリラの言葉 :「もしそうしたいのならクイーンクラスに参加してもいいよ、アン。」

(33b)の “Diana’s light”もこれだけでは意味がはっきりしない。しかし先行談話 (33a)「ダイアナの窓のあかり」からダイアナが自分の部屋の窓のそばに置いている蝋燭の光を意味していることがわかる。(34)の “Anne’s inches”（inch の複数形=背丈/身長）については、マリラが名残惜しく思っているのは単に「アンの身長」というより「背が伸びたアンが子供時代から抜け出そうとしている状況」であり、その解釈には先行談話が必要である。

(33) (a)先行談話　……and the light from Diana’s window shining out through the gap in the trees.

- 34 章　地の文　クイーン学院でアヴォンリー村を思うアン : ダイアナの窓から光が木々の間を通って輝いている。

(b)後行談話　The stars twinkled over the pointed firs in the hollow and Diana’s light gleamed through the old gap.

- 38 章　地の文　物語の終わりでアンが思いにふけっている : 星々が窪地のモミの木々の向こうで煌き、そしてダイアナの光が山間の道の間からかすかに光っていた。

(34) Between times Anne grew, shooting up so rapidly that Marilla was astonished one day, when they were standing side by side, to find the girl was taller than herself.　“Why, Anne, how you’ve grown!”

she said, almost unbelievingly. A sigh followed on the words. Marilla felt a queer regret over Anne's inches.

- 31 章　地の文とマリラの言葉　小学校卒業そしてクイーン学院受験が近づくころのアンの様子：その間、アンは成長した。あまりに早く伸びたのでマリラはある日、アンと並んで立ち、アンが自分より背が高いことに気づいてとても驚いてしまった。「おやまあ、アン、なんて大きくなったんだい。」マリラは信じられないように言った。そのことばの後からため息をもらした。マリラはアンの背丈が伸びたことにみょうに名残おしい気持ちがしたのだ。

第 3 として、先行談話の内容を N が別の言葉で言い換えている事例(35-36)を挙げる。(35)マリラの "Mrs. Barry's letting Diana go"は、先行するアンの発話の中での「ダイアナの母がダイアナの誕生日祝いでアンと一緒に討論クラブのコンサートに行くことを許したこと」を言い換えている。(36)の"Gilbert's plea"は先行談話のギルバートによる一連の許して欲しいという発話を意味している。

(35) "…… You know tomorrow is Diana's birthday.　Well, her mother told her she could ask me to go home with her from school and stay all night with her. And her cousins are coming over from Newbridge in a big pung sleigh to go to the Debating Club concert at the hall tomorrow night. And they are going to take Diana and me to the concert--if you'll let me go, that is. You will, won't you, Marilla? Oh, I feel so excited." "I'm not saying it isn't. But you're not going to begin gadding about to concerts and staying out all hours of the night. Pretty doings for children. I'm surprised at Mrs. Barry's letting Diana go."

- 19 章　ダイアナと一緒に音楽会に行きたがっているアンからマリラへの言葉とマリラからアンへの言葉：アン「そしてダイアナのいとこがダイアナと私をコンサートに連れていくことになっているの、もしマリラが私を行かせてくれたらだけど」。……..マリラ「バリー夫人がダイアナに行かせるなんて驚きだよ」

(36) "It was my fault Mr. Phillips. I teased her."…… "I'm awfully sorry I made fun of your hair, Anne," he whispered contritely. "Honest I am. Don't be mad for keeps, now." Anne swept by disdainfully, without look or sign of hearing. "Oh how could you, Anne?" breathed Diana as they went down the road half reproachfully, half admiringly. Diana felt that she could never have resisted Gilbert's plea.

- 15 章　クラスでアンの赤毛の三つ編みをひっぱるいたずらをしたギルバート　先生とアンに謝るギルバートの言葉、地の文、ダイアナの言葉　：
「フィリップス先生、僕が悪かったのです、僕が彼女をからかいました。」…….「アン、君の髪の毛をからかったりして本当にごめんなさい。」彼は心から反省した様子でささやいた。「本当にごめんなさい、どうかいつまでも怒らないで、アン」アンは一瞥もせず耳もかさずに軽蔑した様子で払いのけた。「まあ、どうしてそんなことができるの、アン」とアンと一緒に坂を下っていたダイアナは非難

と尊敬がまじった様子で息が切れしながら言った。ダイアナはギルバートの願いを自分だったらとてもしりぞけられないと思っていた。

C “Inferable”（先行談話における関連指示物からの推論）の例としては 3.1 節で取り上げた(20)“a First Class teacher’s license”・(21) “a lady’s ring”が相当する。関連することばが先行談話に複数回登場しており、それから推測できる。

D “Anchored”（先行要素にアンカーされている）例としては、91 例ある身体部位 N “Anne’s white blue face”と 30 例ある親族指示 N “Rachel Lynde’s husband”が相当するであろう。

E “New”（新規導入）の事例もある。 (37)の “cart”、 (38)の “photograph”、いずれの N も先行談話に登場しておらず、関連する言葉も使われていない。

(37) “She is very well, thank you. I suppose Mr. Cuthbert is hauling potatoes to the Lily Sands this afternoon, is he?” said Diana, who had ridden down to Mr. Harmon Andrews’s that morning in Matthew’s cart.

- 16 章　アンにお茶に呼ばれたすましたダイアナからアンへの言葉:「母は元気ですわ、おかげさまで。クスバートさんは今日の午後はお芋をリリーサンド号へ運んでいらっしゃるのではなくって？」とダイアナは言った。彼女はマシューの荷車に乗ってハーモン・アンドリュースに今朝行ったばかりだった。

(38) Miss Stacy’s photograph occupied the place of honor, and Anne made a sentimental point of keeping fresh flowers on the bracket under it. （アンが尊敬する小学校のステイシー先生の写真）

- 33 章　地の文 : ステイシー先生の写真は部屋中でもっとも名誉な場所に飾られており、アンがその下にいつも新しい花をバスケットに入れて飾るセンチメンタルな場所だった。

以上のことから、本論のデータにおいては N の情報構造は新から旧情報への連続体であり、WHD の主張と一致している。特に、「多くの N 指示物はある程度の情報 -隣接談話における記述・引用・報告そして先行談話の定指示物他からの推測- を先行テキストから得ている」という指摘については本論も同意したい。その理由の一つは上掲の “B Text reference”例の豊さであり、もう一つは N の特徴である抽象名詞にある。抽象名詞は先行する具体的事柄に関連して使われることが多い。つまり、先行テキストに何らかの関連情報があるということを示唆している。

この「N 指示物の新情報から旧情報の連続体」という結論は参照点構造の性質と整合性があると考える。なぜなら、参照点構造における参照点とターゲットの関係はあくまでも際立ちの程度の違いによるものである。必ずしも既知情報と新情報の対立を必要としていないと考える。そして、動的な参照点構造は談話の流れに沿って常に変化しているものであり、このような弾力のある参照点構造は様々な情報構造を持つ指示物を N に可能にしていると考える。

4. 結論

本論の目的は、参照点構造の動的性質から、①不定 NP's N (“a minister's wife” ; “one's mind”)、②独立所有格 (“Mrs. Lynde's” ; “the doctor's”) そして③N の指示物の情報構造の 3 点を考察することであった。データとして *Anne of Green Gables* に使われている総数 516 の NP's N を用いた。

2 節「NP's N: データと先行研究」では、議論の準備段階として、本論のデータ分析結果とそれに関する先行研究を次の 4 点について説明した。

第 1 に、NP には定でかつ有生名詞(453 例)、特に固有名詞の使用が多い(377 例)、一方、N には無生名詞の使用が多い(452 例)という非対称性を示した。第 2 に、NP として多用される固有名詞は会話参与者へ伝える情報量が多いことを確認した。第 3 に、NP にはトピック化という機能があり、NP's N は「トピックである私たちが知っている NP のことについて言うと、N ですね」を表すことを説明した。第 4 の NP's N の用法に関しては、明確な所有関係を表すものは [A]37 例、全体の 7%に過ぎなかった。最も多く見られたのは、184 例、36%の [E/F]発話・動作・認識・感情・意志・特質等をあらわす N を用いて NP の指示人物について述べる叙述関係であった。NP's N の所有と叙述他の異なった関係をどのように整理するかという問題を示した。

3 節「動的な参照点構造」の 3.1 節「不定 NP's N : 先行談話とドメイン“a minister's wife” ・イディオム “(on) one's mind”」では、最初に、上述の問題の解決として Langacker が提唱している参照点構造を紹介した。参照点構造においては高い際立ちを持つモノが参照点となりターゲットへのメンタルパスを示す。しかし、総称性を表す不定 NP's N (Radden and Dirven 2007:158 “a mother's worries”)の場合は別種とされ、その背景には不定 NP の際立ちの低さから参照点構造を成していないという見方があるものと思われた。

この不定 NP's N について、二種の説明を示した。一つは参照点構造からである。データは、当該不定 NP's N の先行談話においては、NP または N と同じ指示物および関連する言葉が複数回言及されていることを示していた。先行談話がドメインを活気づけ豊かなものへと変化させており、そのことにより際立ちの低い不定 NP が NP に必要かつ十分なトピック性を得て参照点として機能していると考えられる。“a minister's wife”がその例である。二つ目の説明はイディオムからである。慣用の結果、塊として意味を成している不定 NP's N があることを説明した。“(on) one's mind”がその例である。

3.2 節「独立所有格 : 焦点推移 “Mrs. Lynde's” ・メトニミー “the doctor's”」では、N の無い NP' のみの独立所有格を取り上げた。本論のデータにおいて、独立所有格の 93%が固有名詞であることから、固有名詞の情報量の多さが独立所有格の成立に影響を少なからず与えていると考えられる。その上で、二つの事象を参照点構造から説明した。

第 1 は、参照点構造の焦点推移現象である。省略されている N は先行談話ですでに述べられている事柄であり、それが参照点となり、ターゲットとなる NP'のみが言語化されているというメカニズムを説明した。第 2 は、NP と N の密接な関係がコミュニティに周知された結果、際立ちの高い NP のみで使われているメトニミーである。この場合は、先行談話に参照点として働く N 相当の指示物が無い独立所有格であり、それは “the doctor's (office)”のように場所 -

office, house, field, store, academy 等- を示す N に見られ、NP は全て定性を持っていた。

3.3 節「N 指示物の情報構造」では、最初に N 指示物の情報構造についての二つの異なった見解を紹介した：Taylor (1996)は「談話において圧倒的に新で以前には未知」、一方、Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009)は、「新旧情報の連続体」とそれぞれ主張している。

次に、本論のデータを Willemse, Davidse and Heyvaeert (2009)の 5 つの分類基準 (coreferential, text reference, inferable, anchored, new)に従って分析した。その結果、全ての分類基準に相当する表現があり、N 指示物の情報構造は「新から旧情報までの連続体」であることを説明した。この連続体という結果は参照点構造と整合性があるものと考える。なぜならば、動的な参照点構造における参照点とターゲットの関係はあくまでも際立ちの程度の違いによるものであり、必ずしも既知情報と新情報の対立を必要としていないからである。

本論の考察から、談話の進展に伴いダイナミックに変化していく参照点構造が典型的な NP's N のみならず、非典型である不定 NP's N、独立所有格を十二分に支えることができること、そして弾力のある構造が多様な情報構造を持つ指示物を N として可能にすることを確認できたと考える。

本論のデータは特定小説に基づくことから、本論の考察結果には一定の制限があるものと思われる。しかし、今後のさらに幅広い NP's N 研究の一つの段階となることを希望している。

Appendix: A total of 516 *NP's N*s used in *Anne of Green Gables* 表 A～J

表 A=37 表現　　定名詞 NP（固有名詞=32・他=5）＋ものN			
洋服　10	家具・道具 13		装飾品 2
Anne's outfit	Anne's bed	Rhoda Murray's library book	Marilla's most treasured possession
Anne's clothes	Diana's window	Charlie Sloane's slate pencil	Madame the Pink Lady's jewels
Anne's sleeves	Marilla's chair		
Diana's hat	Mrs. Thomas' shelves		
Diana's jaunty fur cap and smart little jacket	Anne's table	食料・植物 7	**定冠詞・代名詞他 5**
	Diana's light	Marilla's famous yellow plum preserves	Organdy's (洋服)
Diana's apron pattern	Harmon Andrews's dory	Marilla's raspberry cordial	the other girls' (洋服)
Matthew's handkerchiefs	Mr. Andrews's dory	Mrs. Lynde's (飲み物) X 2	the pigs' bucket
Matthew's white collar	Matthew's cart	Bonny's leaves (アオイの名前)	the hired man's porridge or black fruit cake
Diana's bows	Miss Stacy's photograph	Anne's layer cake	
Ruby's slippers	the Queen's calendar	the Lover's Lane maples	your father's crop

表 B=91 表現　定名詞 NP (固有名詞=74・他=17)＋身体部位 N			
Anne's face　顔 11	Anne's eyes X 2　目 13	Anne's hair X 3　髪 6	Marilla's hand　手 5
Matthew's face	Marilla's eye X 2	Anne's front hair	Gilbert Blythe's hand
Marilla's face X 3	Matthew's eyes	Anne's long red braid	Anne's clinging hands
Anne's small face	Anne's eager eyes	Diana's curls	Diana's mittened hand
Anne's tragic face	Anne's beauty-loving eyes	Anne's head　頭 4	Anne's folded hands
Marilla's lined face	Marilla's own eyes	Gilbert's head	Anne's fingers
Anne's white little face	Mrs. Rachel's all-seeing eye	Mrs. Barry's head	Anne's heart X 3　心 7
Matthew's shy face	Gilbert's hazel eyes	Anne's clipped head	Mrs. Lynde's heart
Anne's slender white form and spiritual face	Anne's white face and big eyes	Anne's arm　腕 2	Matthew's heart
	Matthew's kindly brown eyes	Marilla's arms	Diana's heart
Anne's nose　鼻 3	Mrs. Rachel's critical eye	Matthew's shoulder　肩 3	Marilla's heart
Diana's nose	Marilla's angry gaze　視線 2	Anne's shoulder X 2	Anne's slim milk-white throat
Alice Bell's crooked nose	Diana's sympathetic gaze	Marilla's waist	Diana's voice
Marilla's faded one＝頬	Anne's dancing feet	Brutus' bust	Diana's blood
Anne's lips X 2　唇 3	Marilla's gingham lap X 2	Anne's stormy bosom	Anne's bones
Marilla's lips	Marilla's knee	Anne's ankle	Anne's flesh
定冠詞・指示詞・代名詞 17	the older woman's hard palm	that lady's cheek	my heart's blood
the child's eyes　目 3	the former's neck	this odd child's body	my father's arm
the girl's eyes	the sorrel's back	her mother's black eyes and hair, and rosy cheeks	her friend's face
the old lady's eyes	the child's tear		her mother's hair
the child's pale face	the latter's face	the harassed man's hands	

表 C=39 表現　定名詞 NP (固有名詞=30・他=9) +人物 N (親族=30・他=9)			
Diana's mother X 2　母 4	Josiah Allen's wife	Rome's best son	非親族
Jane's mother	Mrs. Thomas's husband	Mrs. Rachel's own children	Diana's bosum friend
Diana's injured mother	Rachel Lynde's husband	William Blair's two daughters	Minnie's （親友）
Sam's father　父 4	Mrs. Thomas' intoxicated husband	Mamie Wilson's grown-up sister	Matthew and Marilla's orphan
Matthew Cuthbert's father	Diana's cousins	Lizzie Wright's grown-up sister	Queen's students
Prissy Andrews's father	father's aunt	Moody Spurgeon's sister	Miss Stacy's old pupils
Mrs. Thomas's father	Mr. Silas Sloane's folks	Charlie Sloane's grandmother	Marilla's a dreadful determined woman
Richard Spencer's folks X 2			
定冠詞・指示詞・代名詞 9	his wife's (姪)	our new minister's wife	the boys' company
the minister's wife	her mother's cousin	his wife's people	the Queen's scholars
the girl's mother			this Matthew's companion

表 D=102 表現　定名詞 NP（固有名詞=93・他=9）＋場所 N			
Mrs. Lynde's house　家 14	Mr. Barry's back field　農場 5	William J. Blair's store　店 6	Mr. Silas Sloane's place
Aunt Josephine's house	Mr. Harmon Andrews's field	Blair's store	Mrs. Spencer's place
Eben Wright's house	Mr. William Bell's field	Samuel Lawson's store	Mrs. Lynde's garden
Miss Barry's house	Mr. Barry's field	William Blair's （店） X 2	Anne's room
Mrs. Lynde's (家) X 5	Mr. Barry's (農場)	Lawson's（店）	Diana's little room
Cuthbert's (家)	Mr. Bell's woods　森/丘 5	Queen's Academy	Mr. Barry's kitchen roof
Barry's (家)	Mr. Andrew Bell's big woods	Queen's (Academy) X 19	Rachel Lynde's door
Harmon Andrews's (家)	Bell's hill	Miss Rogerson's class X 2	Lover's Lane X 13
Orchard Slope's（家）	Barry's hill X 2	Matthew's grave X 2	Mr. Wright's lane
Robert Bell's (家)	the Dryad's Bubble (=窪地) X 6	Mr. Bell's spruce grove X 2	Mrs. Barry's nowhere
Mr. Harmon Andrews's (家農場)	Lynde's Hollow X 3	Mr. William Bell's birch grove	Barry's pond X 4
定冠詞・所有格 9			
the girls' dressing room X 2	the doctor's （医院）	your father's flat	her mother's parlor
the performers' dressing room	the ladies' waiting room	His Master's Grave	his aunt's pantry

表 E=148 表現　　定名詞 NP (固有名詞) ＋人物描写 N			
発話行動 34			
Jane's stories	Matthew's consolatory rejoinder	Mr. Bell's prayers	Diana's merry words and ways
Marilla's speech	Marilla's amiable rejoinder	Mrs. Evans's　(recitation)	Anne's expression and attitude
Anne's quaint speeches	Marilla's encouraging answer	Mark Antony's oration	Anne's big words and dramatic gestures
Josie's words	Marilla's positive answer	Gilbert's plea	
Marilla's phrasing	Marilla's response	Mrs. Rachel's criticism	Anne's power of putting her feelings into words
Marilla's grim expression	Marilla's comment	Mrs. Rachel's advice	
Mrs. Rachel's expression	Marilla's emphatic comment	Marilla's opinions	Mrs. Lynde's diplomatic explanation
Miss Stacy's farewell words	Mrs. Rachel Lynde's emphatic comment	Matthew's opinions	
Marilla's way of saying		Marilla's remarks	Anne's Confession
Diana's important communication	Anne's affecting accents		
動作 18			
Anne's doings	Diana's visits	Charlie Sloane's indignant nods	Anne's usual morning greeting
Matthew's doings	Matthew's return	Julia Bell's bow X 2	Mrs. Barry's letting Diana go
Diana's teaching	Marilla's drilling	Anne's religious training	Anne's final summing up
Anne's gypsyings	Marilla's knock	Anne's impulsive caress	Anne's behavior X 2
認識・認知行動 24			
Marilla's requirements	Matthew's predictions	Anne's Apology	Anne's plan
Anne's 'confession'	Anne's early visions	Anne's Impressions	Matthew's and Marilla's benefit
Anne's thoughts	Anne's idea X 2	Diana's imagination	Matthew's benefit
Miss Stacy's tactful, careful, broadminded guidance	Anne's spirits	Diana's efforts	Mrs. Allan's　(宗教観)
	Gilbert Blythe's ambition	Josie's success	Anne's freedom
Anne's own　(夢と空想)	Marilla's disapproval	Josie Pye's malicious smiles	Mrs. Allan's approving smile
感情・意志 29			
Anne's consequent excitement	Anne's cup of happiness	Anne's fuss	Anne's "so there"
Anne's homesickness	Anne's unhappiness	Gilbert's satisfaction	Marilla's astonishment
Anne's little triumph	Marilla's impassioned grief	Anne's dejection	Anne's highest pinnacle of aspiration
Gilbert Blythe's triumph	Marilla's disgust	Anne's consequent humiliation	
Josie's triumph	Anne's tearless agony	Anne's presentiment	Anne's paleness and indifference
Anne's vanity	Marilla's sober	Anne's tribulations	
Marilla's relief	Mrs. Rachel's pessimism	Anne's mortification	Mr. Phillips's brief reforming energy
Josephine Barry's temper	Josie Pye's scorn	Emily's taste	
特色・その他 43			
Minnie May's life	Charlie Sloane's name	Anne's weakness	Diana's dejected countenance
Anne's Life	Gilbert Blythe's name	Matthew's religion	Mrs. Rachel's dumbfounded countenance
Midian's evil day	Em White's (名前)	Marilla's crispness	
Anne's birthday	Julia Bell's (名前)	Anne's inches	Marilla's distinguishing characteristic
Diana's birthday X 2	Anne's death warrant	Diana's fault	
Ruby's party	Miss Stacy's rule	Mr. Bentley's (fault)	Matthew's unaccountable whim
Matthew's case	Miss Stacy's little kingdom	Anne's disposition	
Anne's part	Marilla's exclusive duty	Matthew's way	Ruby and Charlie's(障害物)
Marilla's part	Anne Shirley's early and tragic death	Prissy Andrews's Latin	Jane's　(障害物)
Anne's history X 2		Farmers' Advocate	Josie's　(障害物)
Anne's Bringing-Up	Marilla's unimpassioned way	Tennyson's poem	Josie Pye's companionship
Mrs. Lynde's absence			

表 F=36 表現　　定名詞 NP（定冠詞/指示詞/代名詞）＋人物描写 N			
発話・動作 4			
the boys' dialogue	my woman's heart farewell	the minister's sermons	the Spencervale doctor's dictum
認知行動・感情・意志 9			
the child's disappointment	the Queen's taste	her afternoon's enjoyment	the golden tissue of youth's own optimism
the oculist's prohibition	This Job's comforting	the Dryad's Bubble beckoning	
your mother's will	her neighbor's curiosity		
その他 23			
The Caesar's pageant	the Ladies' Aid	the teacher's course	the old lady's good graces
the person's name	that baby's life	the Queen's class X 7	that child's disposition
My father's name	the Queen's birthday	their neighbor's business	her heart's content
My mother's name	their wits' end	The Maiden's Vow X 2	The Lord's Prayer

表 G=6 表現　　定/複数 無生物名詞 NP＋Misc. N		
five years' lost conversations	last year's blossoms	ten minutes' time
the day's pain and excitement	he next morning's breakfast table	today's mistake

表 H=38 表現　　不定 生物名詞 NP＋Misc. N (有生 N=12 / 無生 N=26)			
有生 N 12	a new minister's wife	one's best chum	a great friend of father's
a minister's family X 2	A Queen's Girl	a minister's wife X 5	no Queen's girl
無生 N 26	a little bookcase girl's (feeling)	a person's mind	a lady's ring
somebody's heart	a little echo girl's (feeling)	each other's hands	people's head
a person's name	a geranium's feelings	a little orphan girl's dress	a crow's nest
a boy's (名前)	anybody's feelings	a teacher's provincial license	crows' nests
anybody else's （袖）	one's feelings	a First Class teacher's license	ladies' eardrops
a girl's dress	one's heart X 2	ladies' tresses	one's prayers
one's conceptions of companionship		children's getting up concerts and racing about to practices	

表 I=6 表現　　不定 無生物名詞 NP＋Misc. N		
a minute's peace of mind or conscience	a moment's reflection	a quarter's music lessons
a few moments' profound reflection	an inch of Queen's color ribbon	arm's length

表 J=13 表現　　成句			
for pity's sake X 7	for curiosity's sake	on Marilla's side	on Premier's side
for education's sake	for the land's sake	on Gilbert's side	

参考文献

Anderson, Mona (1978) "NP Preposing in Noun Phrases." *NELS* 8. pp.12-21.

Deane, Paul (1987) "English Possessives, Topicality, and the Silverstein Hierarchy." *BLS* 13. pp.65-76.

Dowing, Pamela A. (1996) "Proper Names as a Referential Option in English Conversation." In Barbara Fox (ed.) *Studies in Anaphora*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company. pp.95-143.

Fellbaum, Christiane (1987) "On Nominals with Preposed Themes." *CLS* 23. pp.79-92.

Fiengo, Robert (1980) *Surface Structure: The Interface of Autonomous Components*. Cambridge: Harvard

University Press.

Heine, Bernd (1997) *Possession - Cognitive Sources, Forces, and Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.

Langacker, Ronald W. (1991) *Foundations of Cognitive Grammar*. Volume II. Stanford: Stanford University Press.

Langacker, Ronald W. (1993) "Reference-point Constructions." *Cognitive Linguistics* 4. pp.1-38.

Langacker, Ronald W. (1995) "Possession and Possessive Constructions." In Taylor, John R. and Robert E. MacLaury (eds.) *Language and the Cognitive Construal of the World*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter. pp.51-79.

Langacker, Ronald W. (2008) *Cognitive Grammar A Basic Introduction*. New York: Oxford University Press.

Langacker, Ronald W. (2017) "Topic, Subject and Possessor." *Ten Lectures on the Basics of Cognitive Grammar*. Leiden/Boston: Brill. pp.173-210.

Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language.* London: Longman.

Rappaport, Malka (1983) "On the Nature of Derived Nominals." In Levin, L., M. Rappaport and Anne Zaenen (eds.) *Papers in Lexical-Functional Grammar*. Indiana University Linguistic Club. pp.113-142.

Radden, Günter and René Dirven (2007) *Cognitive Grammar*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

Rosenbach, Annette (2002) *Genitive Variation in English: Conceptual Factors in Synchronic and Diachronic Studies*. Berlin: Mouton de Gruyter.

Taylor, John R. (1989) "Possessive Genitive in English." *Linguistics* 27. pp.663-686.

Taylor, John R. (1994) "'Subjective' and 'Objective' Readings of Possessor Nominals." *Cognitive Linguistics*. 5-3. pp.201-242.

Taylor, John R. (1996) *Possessives in English*. New York: Oxford University Press.

Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus*. New York: Oxford University Press.

Wales, Katie (1995) *Personal Pronouns in Present-day English*. Cambridge: Cambridge University Press.

Willemse, Peter, Kristin Davidse and Liesbet Heyvaert (2009) "English Possessives as Referent-point Constructions and Their Function in the Discourse." In McGregor, William B. (ed.) *The Expression of Possession*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter. pp.13-50.

用例出典

L. M. Montgomery (2020) *Anne of Green Gables*. London: Arcturus Publishing Company.

L. M. Montgomery *Anne of Green Gables.* Project Gutenberg. https://www.gutenberg.org/

参考
L.M.モンゴメリー　村岡花子（訳）(1966)『赤毛のアン』東京：講談社.

A Reference-Point Construction Analysis of *NP's N* in *Anne of Green Gables*

Kumiko Yumoto
yumoto@ccs.aoyama.ac.jp

Keywords: *NP's N*, reference-point construction, focus shift, preceding discourse, discourse status of *N* referents

Abstract

This study aimed to examine three aspects of the *NP's N* (prenominal possessives / s-genitive) structure: (1) indefinite *NP's N*s ("a minister's wife"; "one's mind"), (2) absolute possessives ("Mrs. Lynde's"; "the doctor's"), and (3) the discourse status of the *N* referents. The Analysis was conducted based on the reference-point construction proposed by Langacker (1991,1993,1995). A total of 516 *NP's N*s used in *Anne of Green Gables* served as the study dataset. The results revealed two explanations for indefinite *NP's N*s: 1) The activation of the domain by preceding discourse allows the less prominent indefinite *NP*s to gain topicality and serve as reference-points, and 2) certain indefinite *NP's N*s are idiomatic. In addition, use of the reference-point construction for absolute possessives allows focus shift, such that the omitted *N* is a matter already mentioned in discourse that becomes the reference-point, and only the target *NP* is verbalized. It was also noted that the absolute possessive expresses a metonymy resulting from conventionalization. Furthermore, *N* referents are not necessarily limited to new information but rather form a continuum up to given information. The findings of this study reveal the dynamic nature of the reference-point construction in *NP's N*.

（ゆもと・くみこ　青山学院大学）